いわて MTDLP 通信

NO.12　2022.11

第 22 回事例検討会報告

MTDLP 推進委員会 委員長 佐藤伸和

MTDLP 事例検討会を Web 開催しました！

コロナ感染予防対策として、岩手 MTDLP 推進委員会では昨年に続き
今年度１回目の Web 事例検討会を行いました。
練習を重ね、当日はグループ討議で様々な意見を出し合いました。

令和4年11月5日（土）13：30～15:40　Web会議システムzoom

参加者8名（発表1名　聴講2名　MTDLP委員6名）

＜発表タイトル＞

① 草取りがしたいという目標に向けて生活行為向上マネジメントを活用した事例

② MTDLP推進員より事例提示（精神科領域）

＜受講会員の感想＞

・沢山ご意見を頂き、有難うございました。今後の利用者様への支援に繋げていければと思います。
・アセスメント・プランシートに書かれている内容が、他職種への役割も含めて詳細で、現実可能性を感じるマネジメント報告だったと思います。
・とても丁寧にMTDLPで介入したことが読み取れました。
対象者さんが「したい生活行為」も「しなければならない生活行為」も「今後できるようになるだろう生活行為」も、どれも抜け落ちることなくアセスメントし、それが叶うようなプランニングができた事、とても素晴らしいと思います。
対象者さんが希望した「畑の草取り」という生活行為に対して、実際に「除草する」ということだけでなく「畑の草取りを行うことが、対象者さん自身にもたらす作用（作業の効果）」をみんなで検討できた事はとても貴重な時間だったと思います。
また地域に戻りその生活行為を継続するための要素も、より具体的に検討できて「人の心は非常に複雑で多様である」ことが再確認できました。これからもMTDLPを活用していただけるとありがたいです。本当にお疲れ様でした。
・対象者を知るための聞き取りや過去から考察出来る事が大切。本人の思いを引き出すような関わりが大切だと思いました。
・発表お疲れ様でした。精神科と聞くと、普段関わりが少ないこともありとっかかりにくい印象でした。しかし、事例を読み進めていくにあたって、ひとりの人間として関わる視点は変わらないということを感じる事ができました。合意目標の話題のなかで、提供者側の思いが大きい目標になるほど対象者はついてきにくいという佐藤先生の言葉が印象に残りました。対象者の主体性を引き出すためにも合意目標を立てる過程が大切となってくるのかなと感じました。ありがとうございました。

「したい」を「できる」に!
生活行為向上マネジメント
岩手県作業療法士会

■ MTDLP 事例検討会とは

【目的】
MTDLP を用いた事例発表を通してその使い方を理解しよう.

～発表・聴講・検討を通して～
①生活行為に焦点をあてた介入方法を学び,個別対応力を高める.
②他職種等の連携方法を学び,作業療法士としてのマネジメント力を高める.
③具体的な MTDLP の実践に学び､継続的な MTDLP の実践に活かす.

【発表までの流れ】

発表申込みを頂く
↓
担当ファシリテーター決定
↓
事例について検討・書類を整理
↓
事例検討会で発表
担当ファシリテーターがフォロー

＊MTDLP の取り組みについて
＊事例検討会での発表について
どうしたらいい？という会員の皆様

ご連絡お待ちしています.

■ MTDLP 事例検討会の予定

第 22 回事例検討会
令和５年２月５日(土)13：30～

開催方法：Web 会議システム zoom
発表者：基礎研修修了者・県士会員限定
参加費：岩手県士会員　無料
　　岩手県士会非会員　1,000 円
申込み期限等詳細はフォーム内を確認
＊聴講はどなたでも参加可能
（基礎研修未受講でも）
＊県外からの聴講者も受付中
申し込み方法：下記の QR コードから

〈岩手県作業療法士会員〉　〈岩手県作業療法士非会員〉